

第 5 期

事業報告書

自 令和 3 年 (2021 年) 4 月 1 日
至 令和 4 年 (2022 年) 3 月 31 日

3.11 メモリアルネットワーク

代表 武田 真一

<要旨>

3.11 メモリアルネットワークは、2017 年 11 月 17 日に発足し、「東日本大震災の経験を根底に据え、教訓の伝承に関わる個人・団体・拠点施設が地域や世代を超えてネットワークでつながり、過去に向き合い未来へ備える意識を全国、世界と共有しながら、次のことに取り組む。一、災害で命が失われない社会の実現に貢献する 二、被災者や被災地域の苦難を軽減し、再生に向かうことのできる社会の実現に貢献する」を目的に、震災伝承、防災・減災活動の「連携、調整」「企画、評価」「人材育成」事業を実施してきた。

第 5 期は、2021 年 6 月の改選で選任された岩手 3 名・宮城 5 名・福島 2 名の理事体制下で事業を継続した。新型コロナウイルスの影響で延期になった「震災 10 年フォーラム」をはじめ「活動報告会」「第 4 回東日本大震災伝承シンポジウム」といった行事を通じてネットワークとしての情報発信を行ったほか、現地理事・会員主導による各県での交流会を開催した。また、人材育成の取り組みとして、全 3 回の「3.11 伝承交流講座」を実施した。

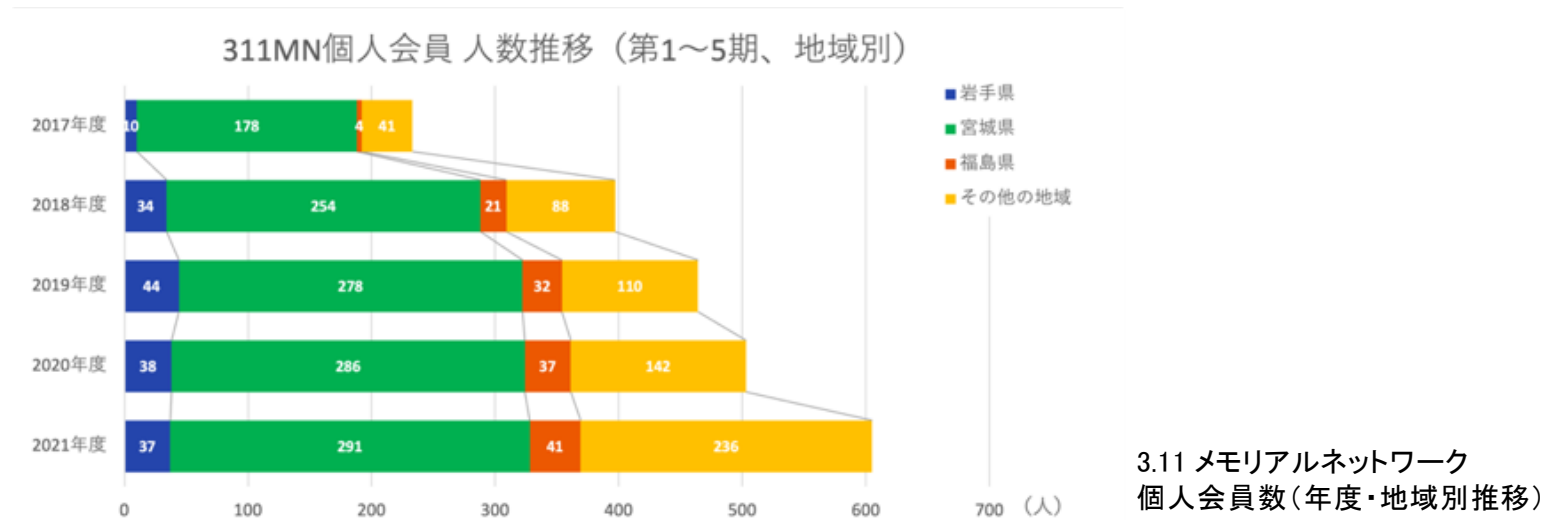
「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」助成による 3 年間の「東日本大震災被災 3 県における震災伝承ネットワークの基盤構築・連携促進事業」は、最終年（～2021 年 12 月）を迎え、連携促進・企画力向上を目的に事業を推進するとともに、役員会を中心に、今後の組織体制に関する議論を推進した。同プロジェクトの基金分担金による、「3.11 メモリアルネットワーク（JT NPO 応援）基金 第 2 次助成事業」も実施した。

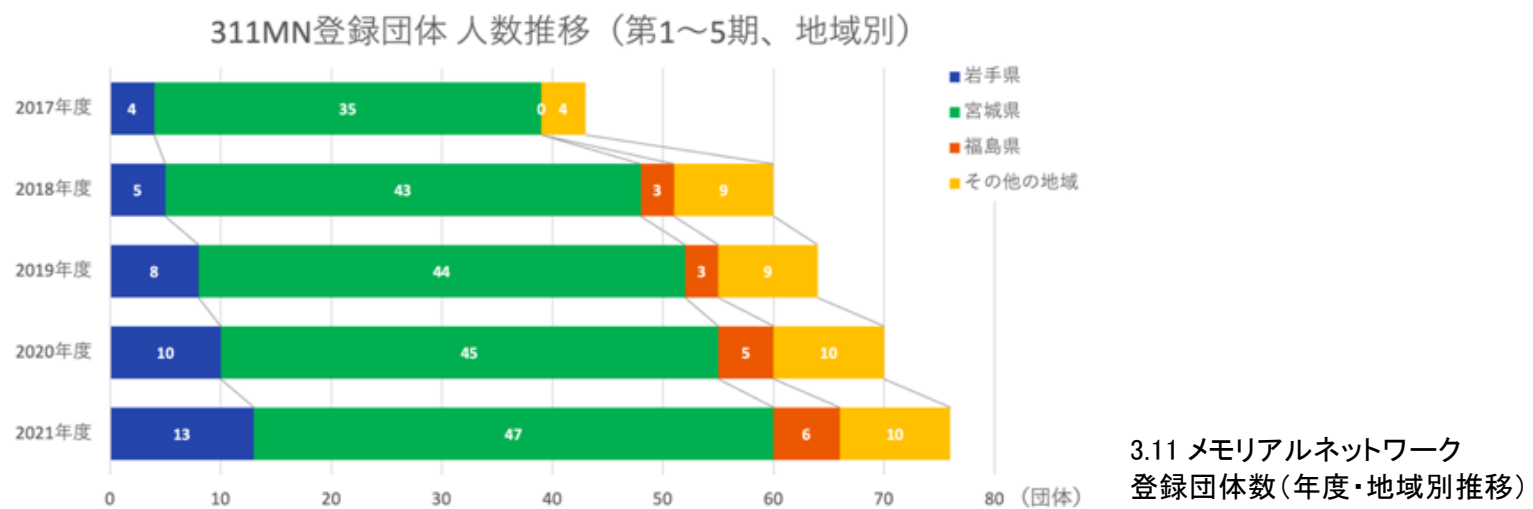
<各事業の報告>

I 震災伝承、防災・減災活動の連携、調整

《会員》 ※括弧内は前年からの増減

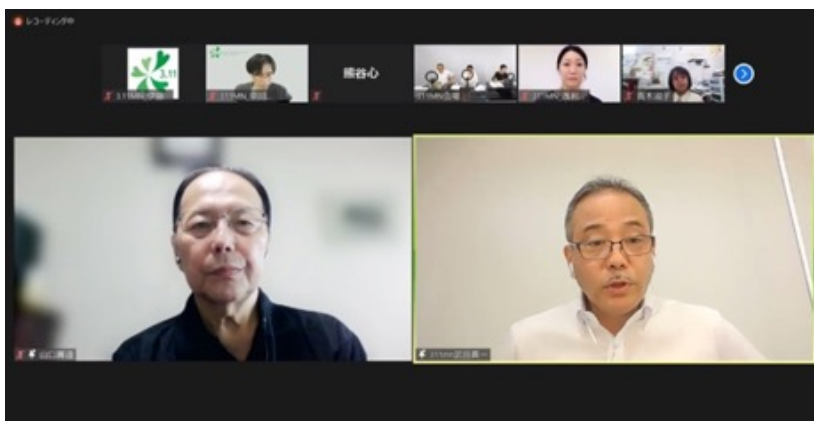
- ・2022 年 3 月末時点で、個人会員 605 名（+97 名）・登録団体 76 団体（+9 団体）となった。地域別では、岩手県 37 名（－1 名）／13 団体（+3 団体）、宮城県 291 名（+5 名）／47 団体（+2 団体）、福島県 41 名（+4 名）／6 団体（+1 団体）、その他の地域で 236 名（+94 名）／10 団体（±0 団体）。
- ・前期に引き続き、視察訪問や知人からの紹介をきっかけに、東北以外の地域の方が多く入会された。また、インターネット等で 3.11 メモリアルネットワークの活動を知った方が WEB 入会フォームで申し込まれる例も増加した。





《総会》

- ・第5期は、2021年6月20日（土）に年次総会を行った。新型コロナウイルスの影響を受け、完全オンライン開催とした。31名がオンライン参加、31名分の委任状を受けて、第4期事業報告・決算報告、役員改選について審議を行い、新役員が決定した。
- ・報告事項として、3.11 メモリアルネットワークの組織改編検討の必要性が共有された。役員会において、1）新たに法人設立 2）既存の法人を改組し活用 3）その他(任意組織継続など) のような方法から土台となる案を作成し、1年後の第6期年次総会にて改編の方針を決定することが確認された。
- ・議事のほかに、神戸の藤本真一氏（阪神淡路大震災「1.17 希望の灯り」）、中越の山口壽道氏（山の暮らし再生機構）、名古屋の栗田暢之氏（NPO 法人レスキューストックヤード）より、オンラインで近況報告とメッセージをいただいた。



《役員会》

- ・役員会は基本的に毎月1回実施しており、第5期は、臨時開催も含め、計15回開催した。新型コロナウイルスの影響を受け、すべてオンラインでの開催となった。
- ・役員会は、会員、アドバイザーもオンラインで傍聴可能として、都度案内を行い、遠方の会員からも傍聴希望があった。「東日本大震災復興支援 JT NPO 応援プロジェクト」で協働する認定特定非営利活動法人日本 NPO センターと日本たばこ産業株式会社（JT）の担当者には、事業期間中、毎回オブザーバー参加していただいた。

《アドバイザー》

- ・第5期は、気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館が新たにアドバイザー就任し、2022年3月末時点でアドバイザーは14組織となった。
- ・復興庁宮城復興局、宮城県震災復興・企画部震災復興推進課、石巻市、仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室、南三陸町、復興庁岩手復興局、東北大学災害科学国際研究所、いわき市市民協働部地域振興課、大槌町文化交流センター、東松島市商工観光課・

防災課、東日本大震災津波伝承館、女川町、山元町教育委員会は前期から継続。

- ・2022年1月20日（木）に東北大学災害科学国際研究所で「第1回アドバイザー会議」を開催した（新型コロナウイルスの状況を踏まえ、ハイブリッド開催）。
- ・アドバイザー11組織13名と、3.11メモリアルネットワーク理事5名が参加し、岩手・宮城・福島の県域を超えて伝承施設の運営や人材育成の課題について意見交換を行った。震災遺構を運営する自治体担当者より、将来を見据えた伝承人材の雇用・待遇改善が必要であるとの意見も寄せられ、伝承活動の継続について官民協働で検討してゆく必要性が再認識された。また、進行役を務めた東北大学災害科学国際研究所今村所長からは、今後の開催継続に期待が表明された。



《メーリングリスト》

- ・会員、アドバイザーの間で連絡、情報共有を行うためのメーリングリストを設置、管理し、随時、双方向に情報を交換できるようにしており、今期は92件の利用があった。
- ・月1回の「震災伝承メールマガジン」も継続的に配信した。

《河北新報データベースの共同利用》

- ・2020年4月から、会員の活動記録、整理、情報収集に活用いただく目的で、新聞データベースの共用を行ってきた。継続を希望する声も寄せられたが、利用状況や予算を考慮し、2022年3月末で共同利用を終了した。

《紙媒体での情報発信》

- ・前期に制作した広報冊子と団体リーフレットを更新・増刷し、頒布した。【JT NPO 応援プロジェクト】※JT NPO 応援プロジェクトで実施した事業については、以下同様に記載する。



《WEBでの情報発信》

- ・第5期は、団体WEBサイトに告知ブログ7件、報告ブログ2件、会員インタビュー3件、「学ぶ」記事4件を公開した。また、登録団体紹介やメディア掲載情報をまとめたページ

を新設した。

- ・年間で 10,499 ユーザー／28,996 ページビューとなっており、特に震災 10 年フォーラム開催日と 3 月 11 日の閲覧が多かった。



3.11 メモリアルネットワーク WEB サイト 日別ページビュー数（2021/4-2022/3）

- ・「2021 年度震災伝承活動調査」の実施に協力し、2021 年 12 月までの各団体、施設の受入数推移や現状認識について調査を行い、2 月、3 月に速報を WEB 公開した。
- ・第 4 期から開始した、JCOM 株式会社との協働による、震災アーカイブ「未来へつなぐ語り部の声」制作・公開を継続した。第 5 期は、応募いただいた 5 組の会員が出演し第 3 ～7 弾の映像が制作され、2022 年 3 月までに YouTube で公開され、各 21,000～56,000 回再生された。3.11 メモリアルネットワークの WEB サイト・Facebook でも周知した。



Ⅱ 震災伝承、防災・減災活動の企画、評価

《プロジェクト》

- ・「各地に震災伝承看板プロジェクト」で、宮城県東松島市野蒜地区に 3 基目となる看板が設置された。会員の山縣嘉恵氏（SAY' S 東松島）を中心に、リーダーの黒澤健一氏（がんばろう！石巻の会）、監修の佐藤翔輔氏（東北大学災害科学国際研究所）、漫画家の井上きみどり氏、設置場所の KIBOTCHA 関係者、また多くの地域の方々の協力を得て看板が完成し、2022 年 3 月 6 日（日）に除幕式が行われた。



《各県交流会》

- ・2021年11月20日（土）岩手ネットワーク交流会「岩手県の体験型震災学習・オンライン事例発表会」を開催した（完全オンライン）。岩手県内で震災学習を行っている学校の教員のご協力を得て、震災学習の事例を発信した。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・2021年11月27日（土）双葉町の東日本大震災・原子力災害伝承館にて、福島ネットワーク交流会「復興祈念公園について、私たちのできること」を開催した（ハイブリッド）。「祈念公園」をテーマに活発な意見交換を行った。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・2021年12月13日（月）石巻市のみやぎ東日本大震災津波伝承館にて、宮城ネットワーク交流会を宮城県主催の研修に引き続く形で開催した（オンライン無し）。官民で共にできる連携、活性化、育成の取り組みについて、時間をかけて意見交換を行った。【JT NPO 応援プロジェクト】



《活動報告会》

- ・2021年12月11日（土）活動報告会「オンライン語り部 現地から伝える今とこれから」と題し、3.11 メモリアルネットワークの活動現状を報告し、福島県大熊町の木村紀夫氏（team 汐笑プロジェクト）と宮城県石巻市の佐藤美香氏（日和幼稚園遺族有志の会）をつなぎ、語りをライブ配信し、35名が参加した。【JT NPO 応援プロジェクト】



《フォーラム》

- ・前期から延期となっていた、2021年5月23日（日）に震災フォーラム「10年を節目にしない ここから始まる伝承のみらい」をオンラインで開催した。YouTube で最大 98 名・Zoom で最大 48 名が参加した。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・「後悔と反省をどう引き継ぐか」「震災報道に何が求められるか」「伝承の担い手をどう育てるか」の3つのテーマで分科会を行い、最後に宣言「東日本大震災の教訓と知見から未来を拓く～永続的で広がりのある震災伝承を実現するために～」を採択した。
- ・YouTube ライブと Zoom 併用で開催し、終了後にアーカイブ映像を公開し、2022年3月末までに約 300 回視聴された。



《シンポジウム》

- ・2022年3月23日（日）釜石市民ホール TETTO にて、「第4回東日本大震災伝承シンポジウム“未来へ”」を開催した（岩手でのシンポジウム開催は初）。会場に 45 名、YouTube 視聴で累計約 250 名が参加した。
- ・行事の前半は、佐藤勇樹氏（NPO 法人富岡町 3・11 を語る会）、夢団～未来へつなげる ONE TEAM～による伝承実演と佐藤翔輔氏（東北大学災害科学国際研究所）による基調講演、後半は、震災伝承に取り組む岩手・宮城・福島出身の登壇者が、若者の伝承活動の“続け方”“始め方”“これから”の3つのテーマでパネルディスカッションを行った。
- ・対話の中で、それぞれの伝承活動の状況や、「東日本大震災の記憶がある最後の世代」としての課題感を出し合い、さらに下の世代に受け継いでいくために「話したいという気持ちを大切にする」「安心して語れる場が必要」といった意見が共有された。
- ・株式会社 JCOM の技術協力（当日の撮影・配信に必要な人員・機材の無償提供）により、YouTube ライブ配信を行った。また、終了後にアーカイブ映像を公開し、2022年3月末までに約 400 回視聴された。
- ・3月16日の地震の影響で、急きょ2名がオンライン登壇に変更となったが、関係者の尽力により、ほぼ計画通りに実施できた。



Ⅲ 震災伝承、防災・減災人材の育成

《講座》

- ・第4期の「3.11 伝承力アップ講座」に続き、第5期は「3.11 伝承交流講座」を実施した（新型コロナウイルスの状況を踏まえ、いずれもハイブリッド開催）。東北各地からのべ75名の方が参加した。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・2021年7月31日（土）第1回「岩手県大槌町で『体験プログラム』を学ぼう」では、神谷未生氏（一般社団法人おらが大槌夢広場）が講師を務め、町内のフィールドワークと「震災疑似体験プログラム」を体験し、参加者に考えてもらうための伝承の手法、工夫について学んだ。
- ・2021年10月17日（土）第2回「福島県いわき市で『展示・資料』を学ぼう」では、フィールドガイドの方の案内で石炭・化石館見学、里見喜生氏（古滝屋）の案内で原子力災害考証館見学をした後、リアス・アーク美術館館長・山内宏泰氏による講話を通じて、多様な展示のあり方とその課題を学んだ。
- ・2021年11月21日（土）第3回「宮城県石巻市で『周遊・コラボレーション』を学ぼう」では、佐藤敏郎氏（大川伝承の会）、藤間千尋氏（公益社団法人3.11 みらいサポート）をはじめ、石巻で活動する複数の語り部さんの案内で見学を行い、地域内のコラボレーション事例講話を通じ、伝承の連携について学んだ。



《3.11 メモリアルネットワーク基金へのご寄付募集》

- ・人材育成の資金的基盤として、3.11 メモリアルネットワークの目的に沿った活動を支える目的で設置された「3.11 メモリアルネットワーク基金」の寄付募集を行った。（寄付金は、公益社団法人3.11 みらいサポートで管理され、有識者で構成される外部委員会の審査を経て、未来の命を守る東北各地の団体の伝承事業に対して助成される。）
- ・第5期は、「JT NPO 応援プロジェクト」2年目で基金分担金としてご寄付いただいた寄付金を元に、「3.11 メモリアルネットワーク（JT NPO 応援）基金 第2次助成事業」を実施した。岩手・宮城・福島の3県で伝承に取り組む11団体へ、合計9,100,000円の助成が実施された。【JT NPO 応援プロジェクト】
- ・WEBサイトやYahoo!JAPAN ネット募金ページで継続的に広報をしながら、企業や個人への個別の寄付のお願いを実施し、新たな寄付者の獲得に努め、2021年3月までに、基金への寄付総額は51,559,812円となった（内訳：指定寄付口座へのご寄付[マンスリーサポート含む] 26,921,393円、JT NPO 応援プロジェクト 基金分担金 20,000,000円）

Yahoo!JAPAN ネット募金 4,536,770 円、Softbank つながる募金 101,649 円)。

- ・個人の方によるご寄付に加え、企業等からも大きな金額のご寄付をいただいた。JT NPO 応援プロジェクトをはじめ、真如苑、石巻ライオンズクラブ、株式会社三菱 UFJ 銀行 仙台支店、JCOM 株式会社からは、10 万円以上の大口のご寄付をいただいた。
- ・ヤフー・LINE 特別企画 Search for 3.11「検索はチカラになる」にて、2022 年 3 月 11 日に「3.11」と検索された数に応じて、ヤフーと LINE が寄付をする特別企画の 5 団体の一つとして選定された。検索数は 11,270,191 人に達し、81,972,720 円の合計寄付額のうち、12,500,000 円を 3.11 メモリアルネットワーク及びメモリアルネットワーク基金に、に寄付いただけることとなった。

IV その他この会の目的を達成するために必要な事業

- ・行事開催時のプレスリリース、メディアの取材対応、講演依頼への対応を通じて 3.11 メモリアルネットワークの活動の広報を行った。

2021/4/6	東京新聞	コロナ禍 伝承活動難しく 被災地の記憶どう受け継ぐか
2021/5/23	仙台放送	東日本大震災の伝承活動の課題などを話し合う公開討論会 宮城県石巻市から配信
2021/5/24	河北新報	東日本大震災 10 年 震災伝承 次世代育成に力 メモリアルネットがフォーラム
2021/5/25	福島民友新聞	東日本大震災の教訓を未来に オンラインフォーラムで意見交換
2021/8/1	河北新報	東日本大震災 正解なき防災問い掛けて 岩手・大槌で 3.11 伝承交流講座
2021/8/2	NHK	震災の教訓をいかに伝えるか 伝承活動を学び合う研修
2021/11/6	河北新報	コロナで施設来館者半減 2020 年・石巻地方 震災学習にも影響 みらいサポート伝承活動の実態調査
2021/12/11	ミヤギテレビ	東日本大震災から 10 年 9 ヶ月 石巻市 オンライン語り部
2021/12/12	河北新報	「被災地の今」現地からオンライン報告 語り部、意義や課題訴え
2022/3/11	PR TIMES STORY	「震災の記憶や教訓を風化させることなく、次世代に伝えていく」 コロナ禍で東日本大震災の語り部活動を映像化する意義
2022/3/19	毎日新聞	東日本大震災 被災者の生の声を残す J.COM が映像配信プロジェクト 経験や後悔、世界の若い人に
2022/3/20	河北新報	教訓継承へ課題探る 岩手、宮城、福島 of 若者参加 釜石でシンポ
2022/3/21	岩手日報	若者が考える震災伝承 釜石でシンポ、連携の大切さ訴え
2022/3/21	毎日新聞	東日本大震災、伝承の未来は 10～20 代の語り部が釜石でシンポ
2022/3/28	釜石新聞 NewS	震災伝承を未来につなぐ 語り部活動する若者ら 現状と課題を発信
2022/3/29	河北新報	東北への高校修学旅行増 被災地の防災教育に注目

第 5 期 メディア掲載情報一覧